

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 ー分析から見てきた成果・課題と今後の取組についてー

区 名	港区
学 校 名	波除小学校
学校長名	石井 力

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・波除小学校では、第6学年 97名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語については、67点（9.3/14）であり、全国：66.8点と同程度である。安定した中間層がありばらつきも少ない。
算数については、58点（9.2/16）であり、全国：58点と同程度である。中間層多いが下位層やや多めである。
理科については、60点（10.2/17）であり、全国：57.1点を上回っている。上位層多く、分布も良好であるといえる。

分析から見てきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕
語彙の意味や使い方の理解に優れ、文脈を踏まえた適切な表現選択ができている。文章の要点を捉え、筆者の考えや意図を読み取る力も全国平均を上回る。
〔算数〕
全体的に全国・府平均を上回り、計算力・数量関係・図形認識のいずれも安定している。基本的な技能の定着が高く、問題文を読み取り筋道を立てて考える力がある。
〔理科〕
「生物」を主とする領域で正答率が高く、観察や比較を通して生物の特徴や環境との関係を理解する力が全国平均を上回っている。科学的に根拠をもって説明しようとする姿勢も育っている。

質問調査より

「自分には良いところがありますか」の質問に対しては、84.2%の児童が肯定的な回答をしている。これまでの人権教育の取り組みのなかで「いいところ見つけ」を学級内・縦割り学年間で続けてきた結果であるといえる。引き続き自己肯定感が高まるよう場面の設定をしていきたい。
「理科の授業では、実験や観察をよく行っていますか」の質問に対しては94.4%の児童が肯定的に回答している。今年度から理科補助員の配置があり、理科室の整備や実験の準備など、専科教員の指導に加えて学習活動が充実しているといえる。次年度以降も継続的に取り組めるように引継ぎを行っていく。

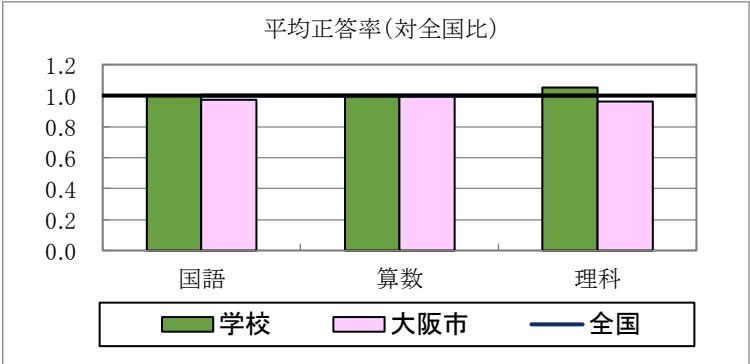
今後の取組(アクションプラン)

国語科においては、読んだ内容を基に自分の考えを理由とともに書く活動を充実させる。文章構造の把握を意識させ、要約・比較・意見整理の練習を継続する。他教科でも「言葉で説明する活動」を取り入れ、思考と言語化の力を高める。
算数科においては、「なぜそう考えるのか」を説明させる機会を増やし、思考の過程を言語化させる。生活に根ざした課題を取り入れ、実感を伴った学習へ。個々の理解に応じた段階的な問題設定で応用力を伸ばす。
理科においては、実験・観察後の「ふりかえり」や「結果の理由づけ」を重視し、科学的な説明力を育成する。予想→観察→考察の流れを意識した授業づくりを行う。日常生活の現象と関連づけた課題設定で理科的思考の活用力を高める。

【 全体の概要 】

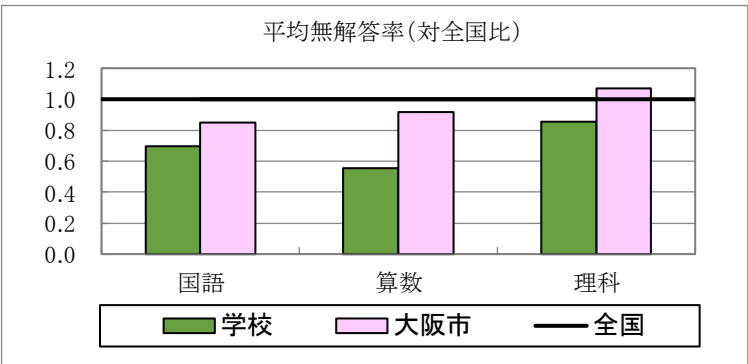
平均正答率（％）

	国語	算数	理科
学校	67	58	60
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1



平均無解答率（％）

	国語	算数	理科
学校	2.3	2.0	2.4
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

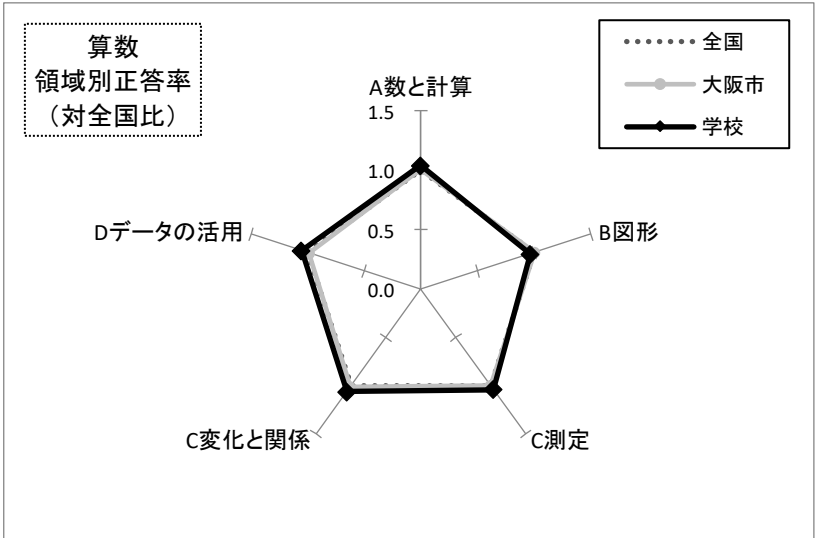
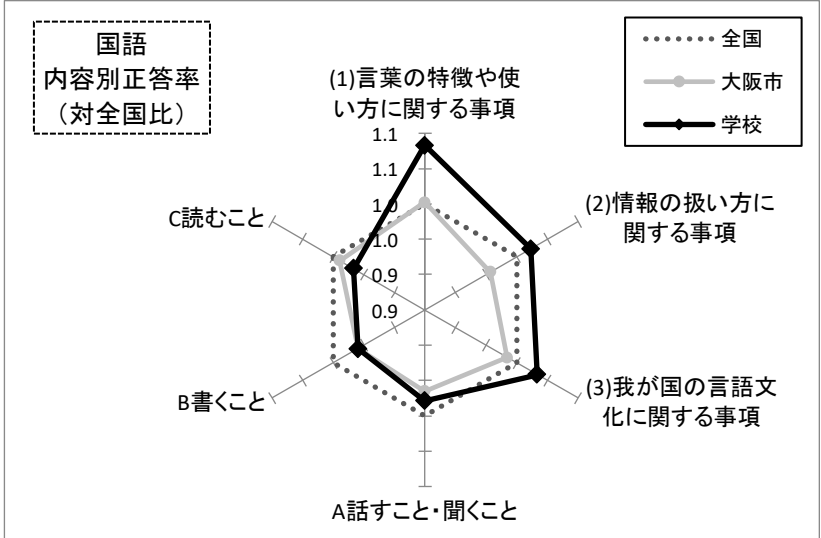
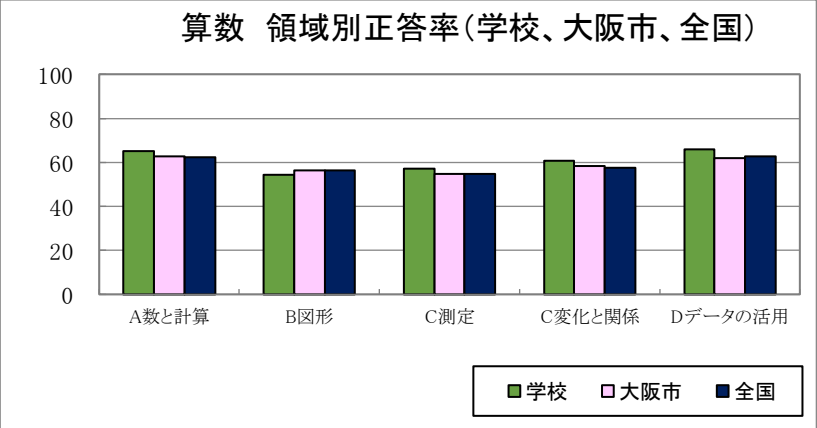
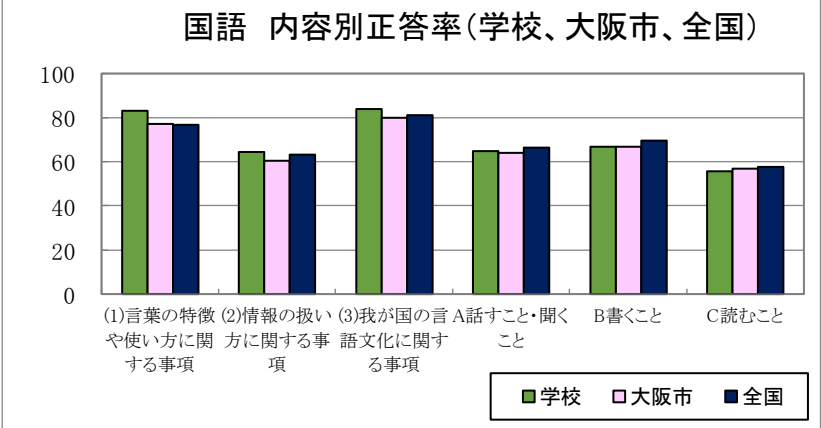


【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	83.3	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	64.5	60.4	63.1
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	83.9	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	64.9	64.0	66.3
B 書くこと	3	66.7	66.7	69.5
C 読むこと	4	55.6	56.9	57.5

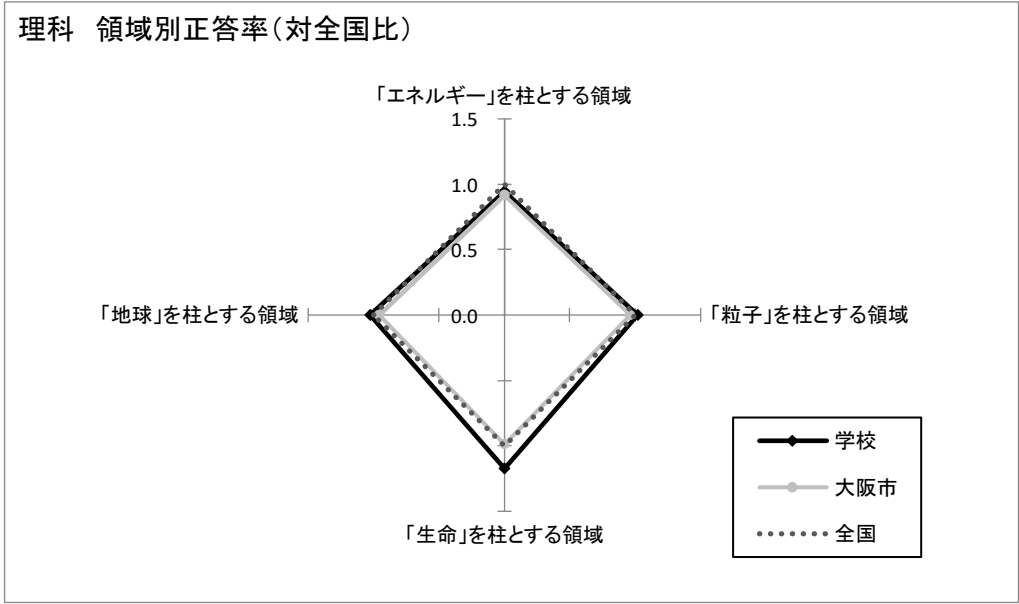
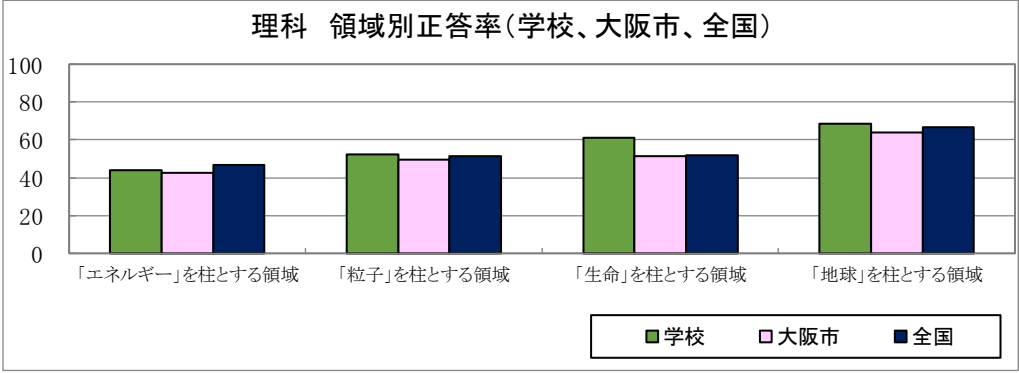
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	64.9	62.7	62.3
B 図形	4	54.3	56.4	56.2
C 測定	2	57.0	54.9	54.8
C 変化と関係	3	60.9	58.2	57.5
D データの活用	5	65.8	61.9	62.6



【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	44.1	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	52.3	49.5	51.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	61.0	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	68.5	63.8	66.7



児童質問より

質問番号
質問事項

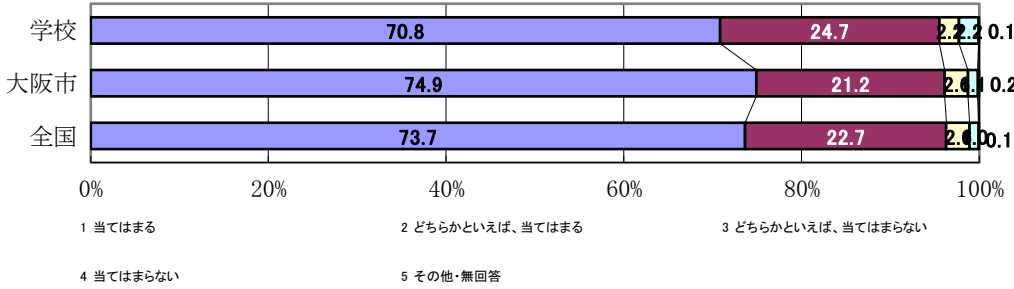
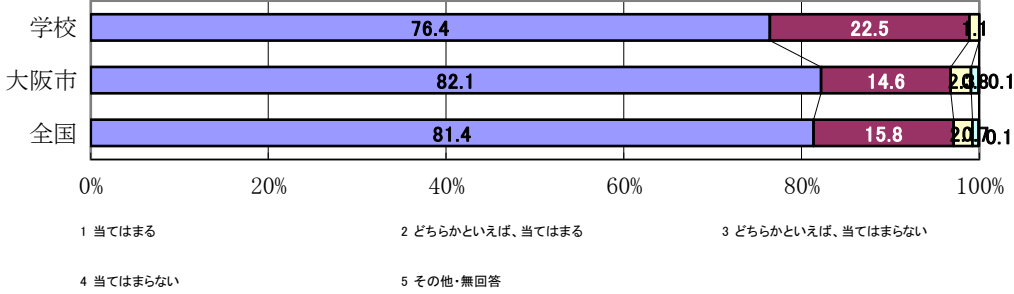
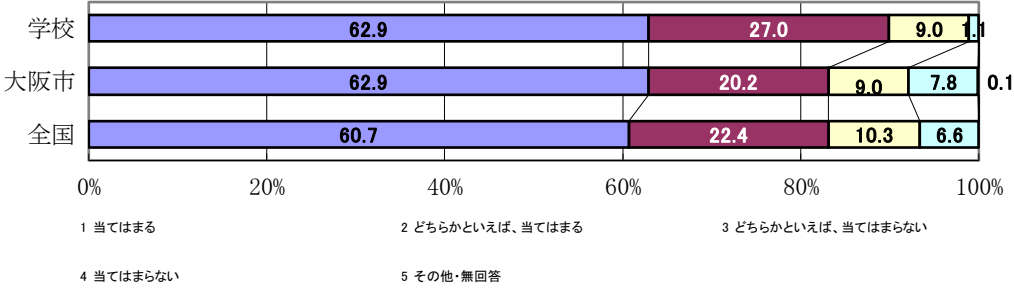
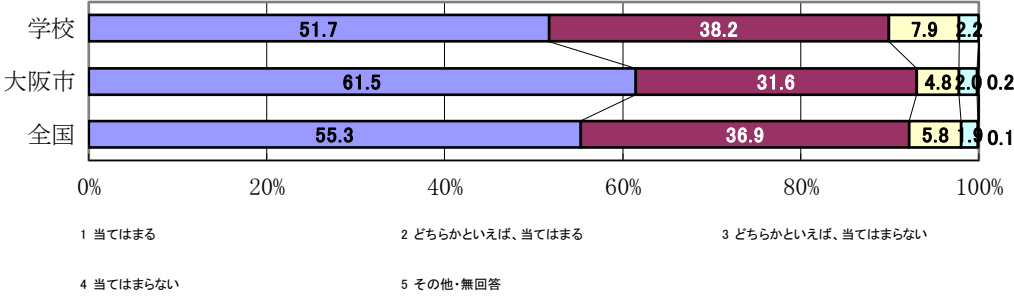
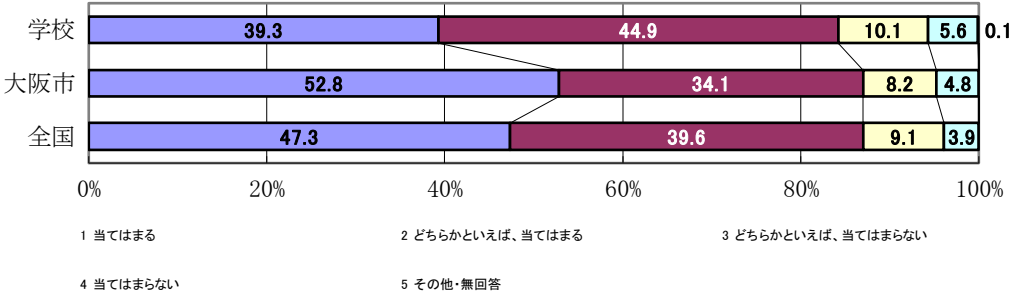
5
自分には、よいところがあると思いますか

6
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

7
将来の夢や目標を持っていますか

9
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

11
人の役に立つ人間になりたいと思いますか



学校質問より

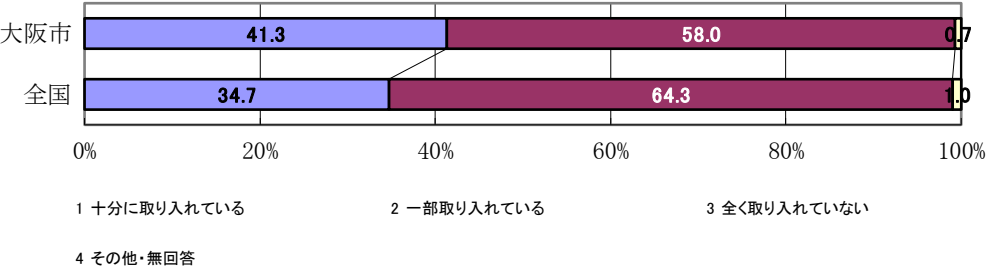
質問番号
質問事項

13

ICTを活用した校務の効率化（事務の軽減）の優良事例を十分に取り入れていますか



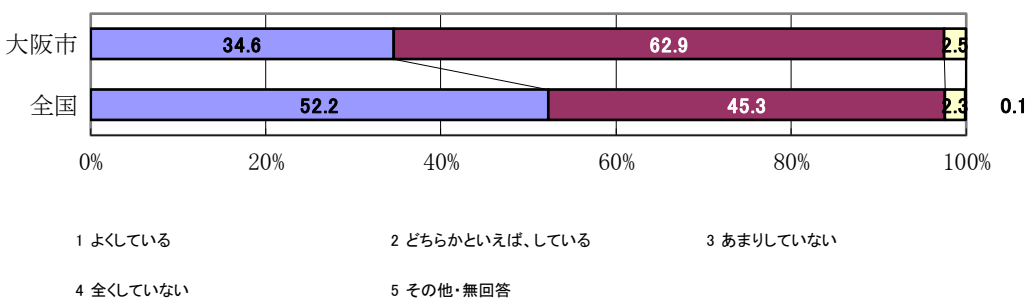
学校 「一部取り入れている」を選択



16

指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか

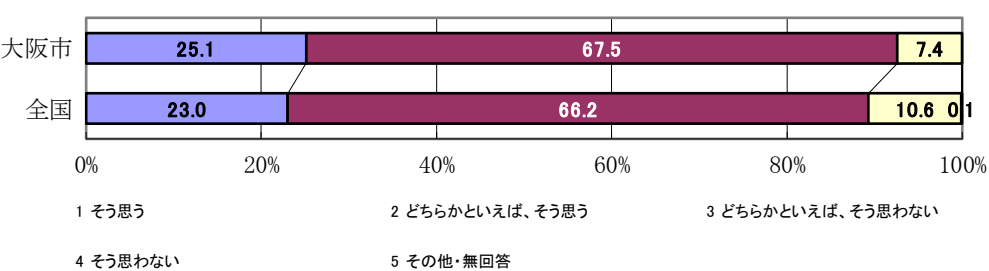
学校 「どちらかといえば、している」を選択



27

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

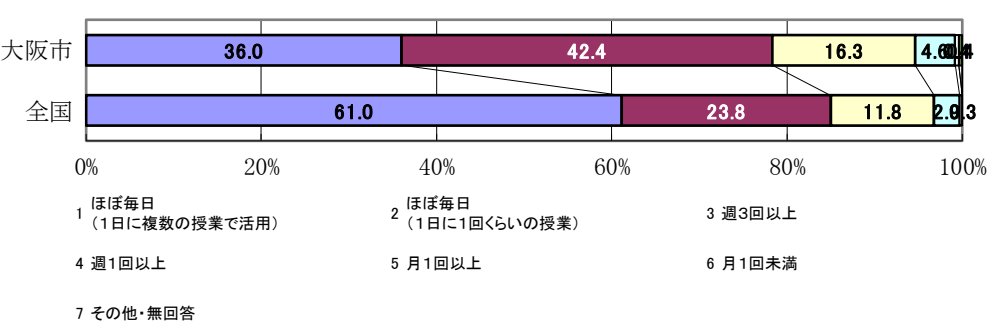
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



58

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

学校 「ほぼ毎日（1日に1回くらいの授業）」を選択



76

地域学校協働活動の仕組みを生かして、保護者や地域住民との協働による活動を行いましたか

学校 「どちらかといえば、行った」を選択

